会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和3年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」  （２）教職員の資質能力向上の推進①効果的な教育成果①効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第3回体制整備事業運営委員会 |
| 開催日時 | 令和3年11月15日（月）　15時00分～17時00分 |
| 場所 | 東京　AP品川アネックス（オンライン開催併用） |
| 出席者 | 事業責任者：高岡 信吾  委　　　員：成底　敏、岡村　慎一、柳田 祐大、泉田　優、  （オンライン参加）  松田　義弘、小田　政江、氏部　正、山根　大助、  富久　重信、猪俣　昇　　　　　　　　　　　　　計11名  請負業者：八木 信幸、飯塚　正成 　　　　　　　　　　　　　計 2名  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計13名 |
| 議題等 | 1. A類〜D類のコンテンツ作成、ならびに実証検証   【分類ごとの概要】  ■D類（成底）  ・今週土曜日に植上先生とミーティングを実施。その際に内容を詰めていく。  ■A類（成底）  ・専修学校設置基準でも、専修学校の位置付け・社会的必要性・今後のニーズなどについて菊田氏に依頼、11/20までに講和内容を提示いただくことになった。その内容に沿って小田先生がパワーポイント資料を作成。その資料に菊田氏の説明を加える。音声収録は1/17の週を予定している。  ・菊田氏へは、わが国の学校教育制度、専修学校制度、専門士・高度専門士と大学・大学院編入学、職業実践専門課程、高等教育の修学支援新制度、専修学校制度の柔軟性の6つをポイントとして依頼している。  ・専修学校設置基準のオペレーションの部分に関しては20分程度、パワーポイント資料作成を山根先生、松田先生が台本を作成、音声は外注を予定している。  ・今年度はコンテンツ作成までだが、コンテンツが完成した時点で、委員の所属する学校で視聴、レポートを出していただき、今後の運用について検討して行ければと考えている。  ■C類（泉田）  ・三友学園は10/14に実施。別紙様式4をポジティブに情報公開に活用している。  ・龍馬学園は10/15に実施。高校への緊密なアプローチが充実しているが、APは募集要項に記載しているが具体的な活用が十分にできておらず、CP、DPについても明確になっていない。  ・穴吹学園は10/15に実施。カリキュラムブックによる「目標とする人材像」の明確化と一覧化が特徴。  ・YIC学院は、IT学科3年制の募集状況が振るわなかったが、3つのポリシーを活用したハンドアウトを作成、OCでの活用が功を奏し、募集状況が改善された。  ・麻生塾は、教育理念を根底に3つのポリシーを効果的に策定。3つのポリシーを活用しPDCAを回しており、教学マネジメントの根幹的な部分に3つのポリシーが活用されている。  ・KBC学園は、クレドカード、KBC学園の誓いによる理念の共有、また志学という人間性の育成のための独自の教学の実践が特徴。またLINE登録に実績がある。クレドカードはKBC学園に模倣して自治体もクレドカードを作成されている。  ・この調査結果を元に研修概要を組み立てた。  ・研修概要は、調査結果からの事例を題材としてグループワークで検討・整理、今後の自校の広報活動・募集活動の可能性・選択肢を広げる一つの手段としていただくことが目的と考えた。  ・最少催行人員は4名×3グループで12名と設定した。  ・開催日程は、1月下旬の1/26～1/27、1/27～1/28で検討したい。  ・研修スケジュールは、6校全ての事例紹介は分量が多くなるので、3つのポリシーの策定、情報公開の根幹をより反映したものを抽出し、三友学園、穴吹学園、YIC学院、麻生塾を選定した。  ・事例発表20分、グループワーク40分。グループワークでは、各グループにリーダー、書記、タイムキーパーを設定、成功の要因、課題・リスク、自校での実現可能性について討論、パネルディスカッションで取りまとめ結果を発表、それを受けてパネルディスカッション30分でトータル90分。4校とも同じパターンで進める。  ・パネルディスカッションでは各グループの取りまとめ結果について、事例紹介者と討論、ファシリテーターは八木先生を予定している。  ・1日目は13時開始でOICと穴吹学園、2日目は9時開始でYIC学院と麻生塾を予定しているが、どちらの日程で担当するか決めたい。  【意見等】  ・場所はどこか。（高岡）  →福岡を予定している。（泉田）  →会場レイアウトを含めたパネルディスカッションの形式を明確にするために定員を設けるか検討してほしい。（飯塚）  →定員に関しては、6名×4グループで24名を考えている。（八木）  →グループワーク時の役割分担のために受講者について情報のキャッチアップ、状況によっては委員がファシリテーターとなりグループディスカッションを活性化する役目も必要。  ・日程についてはどうか。（泉田）  →OICとしては社内研修があるので、1/26が都合が良い。（高岡）  →穴吹学園としては、調査を受けた2名の詳細について確認が必要なので、確認後Slackでの連絡としてほしい。（氏部）  →YICは、副校長の河津は1/26もしくは1/28であれば大丈夫かと思う。現海は3日間とも対応可能。（小田）  →麻生塾は、本人に確認しないと対応可能な日程が分からない。確認後連絡する。（松田）  →日程は1/26・1/27とする。（泉田）  ・現在の仮題だと広報担当者向けというイメージが強い。C類は、「学校運営管理者が自校の魅力向上のために学習し続けるべき能力」を掲げているので、そのニュアンスをタイトルに含めないと対象者が明確にならない。（成底）  →「情報公開を通じた学校の魅力を向上させる経営戦略の検討」に変更。（泉田）  ・講師のコントロールは泉田先生担当で良いか。（飯塚）  →パネルディスカッションは事例紹介をした講師が登壇、その横にファシリテーターを置くことを予定している。（八木）  →事例紹介で2名登壇したらパネルディスカッションも2名登壇で良いのか。調査結果内容から見ると、1名では足りないと感じている。（高岡）  →OICについては、情報が多岐に渡るので、その中からどの部分について紹介していただくのか抽出が必要。（成底）  →OICには別紙様式4の活用について、また就職先の冊子について紹介いただきたい。講師の登壇スケジュール、情報収集などのコントロールについて担当する。（泉田）  ・文科省は招待するのか。（岡村）  →文科省の方が来られることになると、質向上についての見解を含めて挨拶をいただきたいので1日目の開始時間を30分前倒しする必要がある。（飯塚）  →文科省には岡村先生に打診をお願いしたい。（泉田）  ・集客方法については、全専研HPで案内を考えているがどうか。（泉田）  →HPでの案内だけでは足りないので、全専研事務局にメーリングリストで案内を出していただく。全専研への依頼は事務局で行うので、案内状が完成したらSlackで共有して欲しい。（飯塚）  ・スケジュールは、11月中に講師確保、研修案内作成、12月初旬→全専研事務局へ協力依頼、受講者募集開始、12月下旬→受講者調整(最低催行人員確保)、1月中旬→募集締め切り　とする。また、講師は委員の方を通じて依頼することとする。（泉田）  ■B類(成底)  ・教学マネジメントに関する先進事例の紹介として小山学園、調査結果の紹介で三菱総研に講師を依頼、セミナー形式ではなく、オンライン配信で調整を進めている。  ・コンテンツ案として、事業概要説明、職業教育マネジメント調査結果紹介として、①職業教育マネジメントの全体像（PDCAサイクルの必要性）、“C”の部分が弱いということで②調査結果紹介及び課題をすでに本事業と同じような事業を展開している三菱総研に担当していただく。  ・3の取組事例紹介では、①東京テクニカルカレッジでの職業教育マネジメントへの取組事例、東京テクニカルカレッジの事例はあるべき姿として非常に良いが、そこに至るプロセスが重要と考え、②教育マネジメント構築へ至るプロセスと課題を白井校長にお話しいただく。  ・白井校長のコンテンツについては、小山学園で動画を収録する予定。研修講師の学園の了解は得られたが、配信方法については、アーカイブ無しの1度きりの配信、実施日については、12月下旬～1月としたい、とのご要望があった。11月25日までに説明コンテンツ案を提示いただく。  ・三菱総研は沼田様に依頼しており、11月24日を目途に発表案を提示いただく。また、三菱総研への研修講師依頼文を作成する。  ・アンケートについては栁田先生に案を作成いただいた。参加者の概要、自校で実際に行っている学びのPDCAに関する手法、実際にPDCAを回す際のフローについて、自校で行っている企業連携についてと3つの設問となっている。表現方法など調整し、再度共有する。（成底）  【意見等】  ・白井校長に担当いただくコンテンツの配信方法についてはどうか。（成底）  →データは小山学園のサーバで管理するか、データをいただいてこちらで管理するか。それにより管理方法が変わってくる。また録画はしないという誓約条件も必要になってくるのではないか。（飯塚）  →配信方法については、公開日時を限定とするか、日程、データ管理方法など小山学園と調整する。（成底）  ・日程の予定はあるのか。（高岡）  →1月下旬～2月上旬に調整したい。（成底）  →例年通り全専研の2月の例会に合わせて成果報告会をやるのであれば、それまでに結果を出したい。昨年度のようにオンデマンド配信でも良い。（飯塚）  →現状を考えると、全専研の例会に合わせて開催を考えるよりも、昨年度のようにオンデマンド配信のほうが安全なのではないか。（高岡）  →成果報告会は昨年度同様オンデマンド配信とし、1月下旬をめどに白井校長と調整する。（成底）  ・他の委員会でまだ研修や実証の日程が決まっていない所はあるか。（高岡）  →ICT活用研修WGでは、12月でできるかどうか対面で新潟開催を調整中。東京はオンラインのみとする。（猪俣）  ・ヒアリング調査についてはどうするか。（成底）  →今年度については3つの調査を予定しているが、実施済みなのは現状情報公開のみ。今後視察調査をするには日程的に難しいので、マネジメントに関する聞き取り調査、各学校のシラバス・カリキュラムの確認方法などの聞き取り調査についてはアンケート調査にしてはどうか。（飯塚）  →八木先生にそれぞれ調査項目（設問）を作成いただき、アンケート調査を実施する。進捗についてはSlack上で共有する。（成底）  7. スケジュール  ・第4回体制整備事業運営委員会…12月17日（金）13時～  　場所：東京（オンライン開催併用）  8. その他  ・菅野委員の退職に伴い、藤井氏が委員となる。（飯塚） |
| 配布資料 | ・211115 委員会資料  ・菊田氏打ち合わせ資料  ・【概要】広報活動及び情報公開に関するヒアリング調査報告  ・学校運営管理責任者向け研修\_20211110 |

以上